

樹下植栽型複層林箇所における 施業の検討について

十勝西部森林管理署東大雪支署 早川 タ子 平門 由佳子 大志万 菜々子

研究の背景・目的

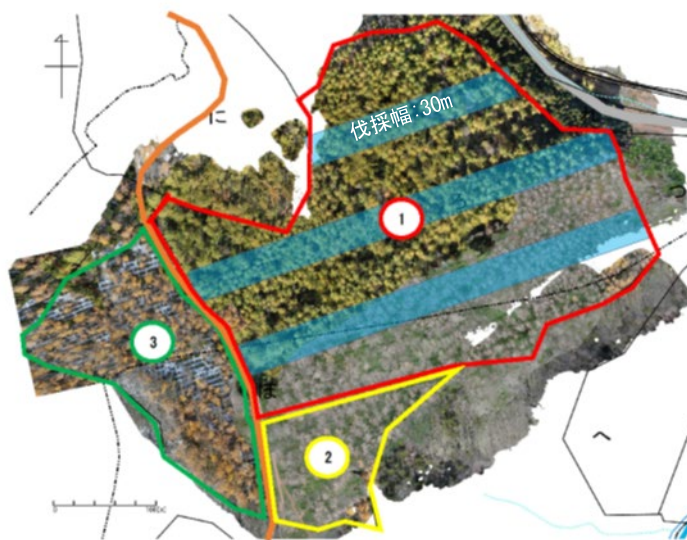
管内には、カラマツの一斉林からトドマツ等へ樹種転換することを目的に、裸地化せずに樹下植栽された複層林箇所が多くあります。

こうした箇所、上木（カラマツ）を伐採する際には下木（トドマツ）が樹下にあることから、作業工程が下がるとともに樹下に植栽されているため、下木の成長にも影響がみられます。

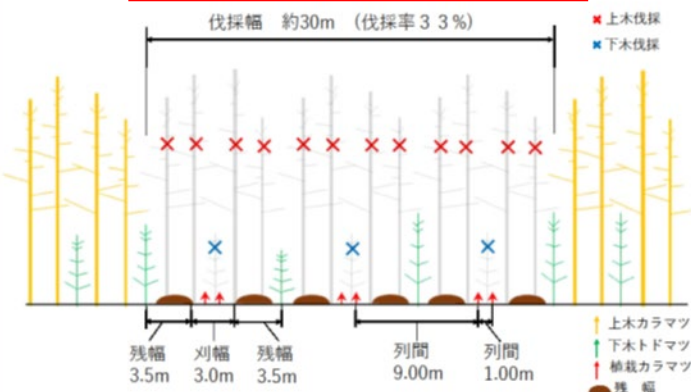
そこで、作業の効率性や下木等の成長を検証するために、いくつか施業方法を検討しました。



検討の内容

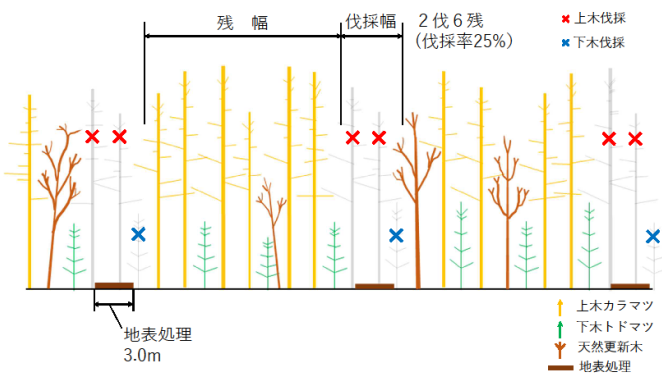


①複層伐型：イメージ図



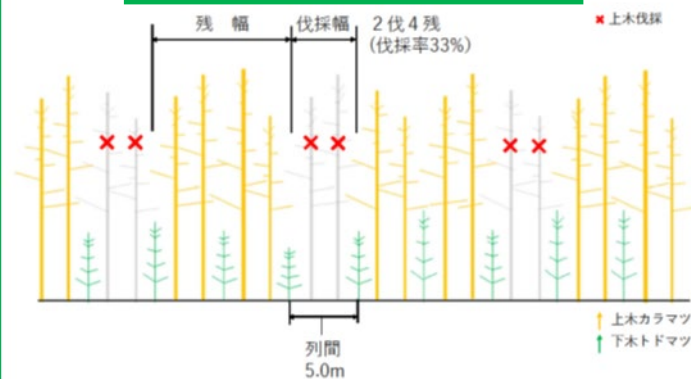
- ・30mの伐採幅内の上木は全て伐採
- ・支障となる下木を一部処理し作業を効率化

②天然更新型：イメージ図



- ・天然更新木の発生が多い箇所を選定
- ・地表処理に支障がある下木のみを処理

③列状間伐型：イメージ図



- ・上木を2伐4残（伐採率33%）で実施
- ・下木が支障にならないよう作業

今後の展開

本検討箇所は令和3年度に収穫調査、令和4年度に事業実行を予定しています。

事業実行の結果、作業の効率性や下木及び天然更新木の成長等、これまでに実行してきた樹下植栽型複層林箇所との比較・検証をしていきます。

今後、得られた結果を、樹下植栽型複層林箇所の施業へ反映させていきたいと思います。